

演題番号: P3-1

筆頭名: 田中祐輔

筆頭所属名: 帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科

共著者名:

○田中祐輔 1)、中瀬裕子 1)、杉本直也 1)、吉原久直 1)、倉持美知雄 1)、田下浩之 1)、新井秀宜 1)、長瀬洋之 1)、山口正雄 1)、大田 健 1)2)

共著者所属:

1)帝京大学医学部 呼吸器・アレルギー内科 2)国立病院機構東京病院

演題名: 好塩基球活性化試験(BAT)が原因成分特定に有用であった、市販の栄養ドリンクによるアナフィラキシーショックの1例

症例: 39歳、女性。主訴: アナフィラキシーショックの原因精査希望。既往歴: 小児喘息、通年性アレルギー性鼻炎。家族歴: 特記事項なし。現病歴: 受診1年前に市販の栄養ドリンクを飲んだところ、直後に咽喉頭の違和感が出現。受診の4ヶ月前に別の栄養ドリンク A (頻繁に飲んでいて) を飲んだ直後に咽喉頭の搔痒が出現。2ヶ月前には A を飲んだ直後に咽喉頭の搔痒、全身じんま疹、下痢が出現、近くの病院を受診した。血圧低下を伴い、アナフィラキシーショックと診断され治療により軽快した。原因精査を希望して来院された。皮内テストでは A (10倍希釈) 7x6/20x14、健常人でも 5x4/8x6 と弱い反応を認め、即時型皮膚反応による診断及び原因成分特定は困難と考えられた。そこで A の成分のうち、11種類を選んで好塩基球活性化試験 (BAT) を施行、A およびその成分コチニール色素にて CD203c 発現誘導陽性 (健常人では陰性)、その他 10成分では陰性であり、原因はこの色素と判断した。本症例に於いて、BAT は鋭敏で非特異的反応を低減でき、原因成分特定に極めて有用であった。